「我が懐かしき歌」補遺 48　2019/7/27（土）

今日の雨は、近づいてきた台風 6 号によるものですね。メロディーからかろうじて思い出す「悲しき雨の音」を検索したところ 2 つの歌詞が引っかかってきましたが、いずれもうろ覚えの歌詞と違っていました。なんとかやっと見つけ出した「悲しき雨音」のはダニー飯田とキング・パラダイスの歌っていたものでした。ほかの 2 つの歌詞と原語も載せておきます。同じ曲に 3 つの公開された日本語の歌詞があるのも珍しいと思いました。

『悲しき雨音』
　訳詞: 佐野修　作詞・作曲: J ガモー
　ダニー飯田とパラダイス・キング

冷たく降り注ぐ
悲しき雨の音
ひとりぼっちの僕を
苦しめるのさ

今では遠い夢と
諦めようと
思ってみても
どうにもならないのさ

いとしの君よ
もう一度
この胸に帰っておくれ

冷たい雨よあの娘
探しておくれ
今でも僕は君を
愛しているよ

いとしの君よ
もう一度
この胸に帰っておくれ

冷たい雨よあの娘
探しておくれ
今でも僕は君を
愛しているよ

『悲しき雨音』
　作詞：訳詞：岩谷時子
　作曲：John C Gummoe

彼を待ってる窓辺に　さみしい雨の音
ひとりぼっちのため息か　こぼれる涙か
彼はあたしが愛した　ただひとりの男
なのに　彼にはわからない　あたしの心が
雨よ　彼に伝えて　ふたりの悲しい恋も
いつかはよみがえるでしょうと

そうさ　雨のあとは天気　彼も気が変わるわ
急いであたしのところへ　涙を吸いにくる
あたしが彼を　こんなに愛しているのをどういおう
胸に抱かれたらどういおう
ため息ついて聞いている　さみしい雨の音
ひとりぼっちのガラス窓　ぬらすは涙か
ひとりぼっちのガラス窓　ぬらすは涙か

『悲しき雨音』
　訳詞:　あらかはひろし
　作詞・作曲：GUMMOE JOHN C
　ザ・ピーナッツ

耳をすませて聞こうよ　あの雨の音
恋にやぶれた　おろかな　私のためいき

みんな雨に流したいの　私のこの思い
だけどあの人はいつでも心にこの雨を

あの人におしえて　切ないこの気持

とてもこのまま　待ちきれないの

みんな雨に流したいの　私のこの思い
だけどあの人はいつでも心にこの雨を

あの人におしえて　切ないこの気持
とてもこのまま　待ちきれないの

みんな雨に流したいの　私のこの思い
だけどあの人はいつでも心にこの雨を

"Rhythm Of The Rain"
by John C Gummoe
Cascades

Listen to the rhythm of the falling rain
Telling me just what a fool I've been
I wish that it would go and let me cry in vain
And let me be alone again
The only girl I care about has gone away
Looking for a brand new start
But little does she know
That when she left that day
Along with her she took my heart
Rain please tell me now does that seem fair
For her to steal my heart away when she don't care
I can't love another when my hearts somewhere far away

The only girl I care about has gone away
Looking for a brand new start
But little does she know that when she left that day
Along with her she took my heart
Rain won't you tell her that I love her so
Please ask the sun to set her heart aglow
Rain in her heart and let the love we knew start to grow
Listen to the rhythm of the falling rain

Telling me just what a fool I've been
I wish that it would go and let me cry in vain
And let me be alone again
Oh, listen to the falling rain
Pitter pater, pitter pater
Oh, oh, oh, listen to the falling rain
Pitter pater, pitter pater

「我が懐かしき歌」補遺 47　　7/20(土)

「おてもやん」は幕末ごろにできた熊本の歌で、当時は熊本の花柳界のお座敷歌だったようです。「おてもやん」は「女中さん」といった意味合い、または肥後の女性全般を指す言葉とする説もあるようです。富永チモという実在のモデルがあるとされ、三味線と踊りの師匠であった永田イネ（慶応元年(1865) - 昭和 13 年(1938）が作詞、作曲したそうです。チモに横恋慕した人物は実際顔に天然痘の後遺症があったといいます。なお、この歌は富永チモが亡くなった昭和 10 年(1935)に発表されました。1935 年ごろ、赤坂小梅が歌ったレコード化によって、日本全国に知られるようになり、再吹込みをし、これが大ヒットして、赤坂は 1953 年の第 4 回 NHK 紅白歌合戦と 1955 年の第 6 回 NHK 紅白歌合戦に出場し、「おてもやん」を歌っています。笠置シズ子、ザ・ピーナッツ、植木等も歌いました。(参考: 世界の童謡・民謡、Wikipedia)

『おてもやん』
作詞・作曲: 永田イネ

一番
おてもやん あんたこの頃
嫁入りしたではないかいな

嫁入りしたこつぁしたばってん
ご亭どんが ぐじゃっぺだるけん
まあだ 杯ゃせんだった

村役 蔦役 肝煎りどん
あん人たちの おらすけんで
あとはどうなと きゃあなろたい

川端町っつあん　きゃあめぐろ（曲がろうたい）
春日ぼうぶらどんたちゃ
尻ひっぴゃあて（ふっぱって）　花盛り　花盛り

ピーチクパーチク　ひばりのこ
げんぱくなすびの　いがいがどん

二番
一つ山越え　も一つ山超え　あの山越えて
私やあんたに　惚れとるばい
惚れとるばってん　いわれんたい

追々彼岸も近まれば
若者衆（わきゃもんしゅう）も寄らすけん
くまんどん（熊本）の　よじょもん詣りに
ゆるゆる話を　きゃあしゅうたい

男振りには惚れんばな
煙草入れの銀金具が
それもそもそも因縁たい

アカチャカベッチャカ　チャカチャカチャ

歌詞の意味（現代語訳）

一番
おてもやん　あなた最近
お嫁にいったんじゃなかったの？

嫁入りしたにはしたんだけど
旦那が痘痕（あばた）で酷かったから
まだ式はあげてなかったのよ

村の役付きや火消し役、世話役
あの人たちがいるから

あとはどうにかなるわよ

川端町の方へ廻って行きましょ
春日のカボチャ達は　尻を出して
花盛り　花盛り

ピーチク　パーチク鳴くひばり（雲雀）の子
醜いなすびのイガイガ達

二番
いくつも山々を越え
私は貴方に惚れている
惚れてるからこそ言えない

やがてお彼岸も近づいてきて
若者たちも集まってくる

熊本の夜聴聞（よじょもん）のときに
ゆっくり話をしてみたい

見た目で惚れたわけじゃない
煙草入れの銀金具に惹かれただけ

（アカチャカ…は意味のない囃子詞）

「夜聴聞（よじょもん）」とは、夜にお寺で行われる説教・説法を聴く会のことだそうです。住職のありがたい法話を聴くという建前の下、男女の出会いの場としても機能していたようです。

「我が懐かしき歌」補遺 46　　7/13（土）

「時には母のない子のように」は寺山修司が主宰する劇団「天井桟敷」に新人女優として入団したカルメン・マキのデビュー曲として企画され、昭和 44 年(1969)にリリースされました。作詞は寺山が手掛け、寺山の秘書を務めていた田中未知が作曲を行っ

たということです。カルメン・マキはこの曲で 1969 年の第 20 回 NHK 紅白歌合戦に出場を果たしました。作詞の寺山修司は、後に本作をモチーフにした大人向けメルヘン作品を書き下ろし、本曲と同じタイトルで出版しています。イントロとエンディングに流れる波の音は、録音スタッフが神奈川県・湘南の海岸で録音したものが用いられているそうです。なお、本作品は 1969 年当時に録音されたイタリア語ヴァージョンが存在します（イタリア語歌詞作者は不詳、1998 年まで未発表音源)。この歌を契機として和製フォーク全盛の時代が始まったと言われます。(参考: Wikipedia)

『時には母のない子のように』
　作詞: 寺山修司　作曲: 田中未知

時には母のない子のように
だまって海を見つめていたい
時には母のない子のように
ひとりで旅に出てみたい

だけど 心は すぐかわる
母のない子になったなら
だれにも愛を 話せない

時には母のない子のように
長い手紙を書いてみたい
時には母のない子のように
大きな声で叫んでみたい

だけど 心は すぐかわる
母のない子になったなら
だれにも愛を 話せない

「我が懐かしき歌」補遺 45　　7/6（土）

1969 年 3 月 30 日の日曜日、パリの路上でフランシーヌ・ルコント（当時 30 歳の女性）が、ビアフラの飢餓に抗議して焼身自殺しました。翌3月 31 日の朝日新聞夕刊が小さなスペースでこの外電（AFP）を載せているということです。。郷伍郎はこの記事

に触発されて『フランシーヌの場合』を作詞作曲しました。新谷のり子が歌っています。自分が学生の頃、この歌を背景も知らずに聴いていましたが、史実を知るとなかなか重いものがあります。当時はスマートフォンや Google もなく、現在のように手軽に検索はできませんでした。(参考: Wikipedia)

『フランシーヌの場合』
　作詞：いまいずみ あきら 作曲：郷伍郎

フランシーヌの 場合は
あまりにも おばかさん
フランシーヌの 場合は
あまりにも さびしい
三月三十日の 日曜日
パリの朝に 燃えたいのちひとつ
フランシーヌ

ホントのことを 云ったら
オリコウに なれない
ホントのことを 云ったら
あまりにも 悲しい
三月三十日の 日曜日
パリの朝に 燃えたいのちひとつ
フランシーヌ

ひとりぽっちの 世界に
残された 言葉が
ひとりぽっちの 世界に
いつまでもささやく
三月三十日の 日曜日
パリの朝に 燃えたいのちひとつ
フランシーヌ

フランシーヌの 場合は
私にも わかるわ
フランシーヌの 場合は
あまりにも さびしい

三月三十日の　日曜日
パリの朝に　燃えたいのちひとつ
フランシーヌ
フランシーヌ
フランシーヌ